

目的 私達の生活環境に潤いと安らぎを求めて様々な提案がなされている。「緑豊かなまちづくり」には、各家の塀を生け垣にすることなどと共に、公共施設の緑化も大切である。特に、小中学校は、子供達の生活の拠点であると同時に緑化教育や環境教育の場ともなる。また、人々の身近にある公共施設であり、今後、生涯学習の場としても注目される場でもある。本報では、小学校の緑化が町の緑化に果たす可能性について検討する。学校緑化には、学校内部校庭の緑化と学校周囲の緑化があるが、ここでは、町の緑化という観点から、周辺住民も目につく学校周囲の緑化に注目している。

方法 対象地を大阪府東大阪市の小学校。1000分の1の地図より、学校周囲の延長を求め、一部の小学校について学校の囲いについての現状を観察により把握する。同時に、学校緑化について教育委員会にヒアリング調査を行う。

結果 東大阪市には市立小学校54、分校2、児童数は35,785人、その合計面積は665,017㎡（平成元年5月1日現在）である。学校周囲の延長は258.5km、最小2.9km、最大6.9kmである。このうち、75%の195.2kmが道路に面しているが、大半は金網やブロック塀であり、緑化されているのはこのうち20%以下と少ない。これだけの延長を生け垣とすれば、地区の緑の核、緑の帯として、町の緑化に生かすことが出来るはずである。公共施設の緑化は、日常的な維持管理が必要なことから行われにくい。小学校などの教育の場を緑豊かな環境にすることは、樹木という自然の生命体の持つ性質や管理の必要性を子供達に体験させると共に、周辺住民に潤いを与え、地域緑化に役立つため、推進が望まれる。